

奈良の鹿とポイ捨て

3年1組30番 安成 菜々美

- はじめに

近年、私たち人間は大量生産大量消費の文明を築いてきた。大量生産・大量消費社会は私たちが豊かにする一方、資源の枯渇問題や自然界環境破壊、地球温暖化などの弊害を招いている。

私たちはグローバル探求という世界のあらゆる問題について考え探究する授業で、SDGs17の目標を学び沢山の課題を目の当たりにした。最初は世界規模の問題について探究していたが、私達にできる事は限られていた。そこで、私達高校生でも何かできる身近な問題から解決していこうと思い、私達の地元である奈良を調べた。奈良は自然豊かであり歴史的建造物が多いため観光客が沢山訪れる。一般財団法人奈良の鹿愛護会によると、観光客の影響によりゴミのポイ捨てが増え、シカが沢山いる奈良公園ではそのポイ捨てされたゴミを食べ物と間違っって誤飲してしまう事が問題となっている。

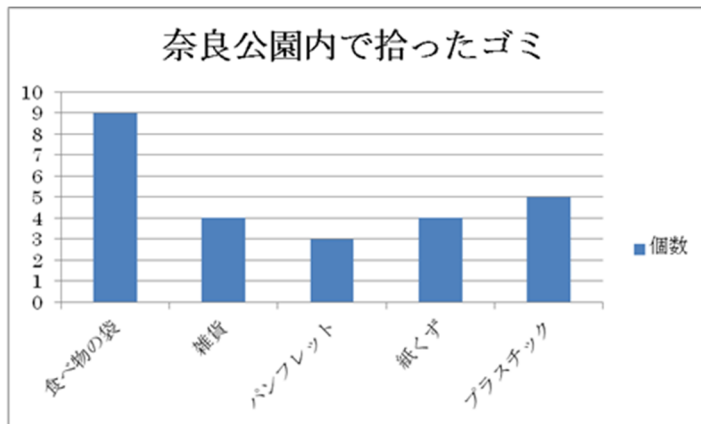
- 序論

私たちは奈良公園のゴミのポイ捨てによる鹿への被害や環境への悪影響を解決するために探求した。一般財団法人奈良の鹿愛護会によると、鹿は食べ物の匂いが付いたビニール袋を食べてしまうという問題が発生している。奈良公園にはゴミ箱がないゆえに、食べ物が入ったビニール袋を捨ててしまう人がいるのだ。一般財団法人奈良の鹿愛護会によると、過去には死亡した鹿の胃から重さ約3.2キログラムのビニールの塊が出てきた事例がある。(左図) 右の写真は2021年7月22日に1歳の雌鹿の胃の中から出てきたビニールの塊だ。奈良の鹿は、野生動物でありながら、街中で暮らしているという点で世界的に見ても非常に稀有な存在だ。それゆえ、人の生活との距離が接近し、本来食べ物でないものを食べてしまい健康被害に遭うことがある。



一般財団法人奈良の鹿愛護会ブログ イベント情報と日々のこと(2021年7月)より

日本獣医生命科学大学の宇佐見氏によるゴミ拾い調査の結果によると、食べ物の包装袋が一番多い結果となった。袋に付いた人間の食べ物を食べようとしてビニールを誤食してしまうのである。また下図の通り、パンフレットなどの紙類を食べってしまうこともある。



日本獣医生命科学大学 宇佐美(2019年2月)より

私たちはどのような方法で奈良の鹿の被害を少なくできるか一般財団法人奈良の鹿愛護会に直接電話で二つの質問をした。この財団法人は、奈良の鹿の保護活動を行なっている団体である。奈良の鹿のエキスパートが集まる団体であるため、信頼性が一番高いと判断し、この団体に質問をした。一つ目は奈良公園にゴミ箱を設置できるか質問した。私たちはゴミ箱の設置が最も有効だと考えた。しかし、担当者によると、奈良公園にゴミ箱を設置することはできないと返答された。ゴミ箱を回収する人材や人件費の問題があるからだ。二つ目は最も有効な対策は何か質問した。ゴミ拾いキャンペーンや看板、ポスターなどの啓発活動が最も有効であるとの助言を得た。原則、ゴミは持ち帰ることになっている。

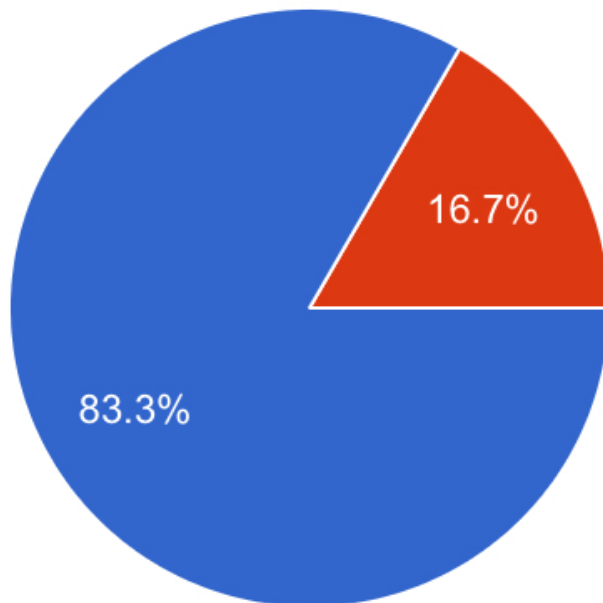
- 本論

私たちは一般の人に奈良公園の鹿の被害を知ってもらうために、どんな人でも分かるようなポスターを作ることにした。人々の意識を変えることがこの問題の解決に繋がると考えたからだ。まず私たちはどのようなポスターが人の目につきやすいか考えた。そこで絵中心のポスターと文字中心のポスターを作成し、学校の玄関前に掲示し1週間後にどちらのポスターが見やすいかアンケートをとった。



青83.3%・上の写真 左のポスター

赤16.7%・上の写真 右のポスター



「どちらが奈良公園に来た人の目にとまりやすいと思いますか？」
 という質問の回答（国際高校の66名 2022年6月17日）

その結果、絵中心のポスターが見やすいという人が8割を超えた。ポスターを見た人からは、「カラフルで目立つ」「イラストが目につきやすい」「イラストが可愛すぎる」などの意見があがった。一方、文字だけのポスターが見やすいという結果も出た。「外国人でも分かる」「シンプルで見過ぎない」という意見もあり、割合こそは少ないものの文字だけの利点に着目した人がいるのも事実であった。これらを踏まえて、私たちは両方の利点を導入し

た画期的なポスターを作成しようとした。さらに私たちはより多くの人に見てもらおうとポスターの貼る場所を考えた。私たちはすぐに近鉄奈良駅を候補に出した。オープンデータウェブサイトによると、近鉄奈良駅は奈良県内の駅別乗降ランキング5位で1日に約3万4千4百人が利用し、外国人観光客の利用者数もJR奈良駅に次いで多い。これらのデータから、近鉄奈良駅はより多くの人に見てもらい普段から意識をもたせ、これから観光する人にも理解をしてもらえる格好の場所だと考えた。しかし、せっかく駅に貼ったのに見てもらえなければ意味がない。そこで駅構内のどこが1番人の目に付きやすいか考え、誰もが通る改札口周辺が良いと思った。改札口を利用する全ての人がポスターを見るのは不可能だが、人の目につく確率は上がる。

- 結論

以上のように、ポスターなどの啓発活動が奈良公園の鹿を守るための1番の方法だと考えた。そして、世の人々に奈良公園の鹿の被害を知ってもらうためにどんな人でも分かるポスターを作成しようと絵中心のポスターと文字中心のポスターを学校の玄関前に啓発し、どちらのポスターが見やすいと思うか生徒にアンケート調査を実施した。絵中心のポスターはイラストが分かりやすく、文字中心のポスターは外国人でも分かり、インパクトがあるという調査結果が得られた。また、どこにポスターを啓発すればより多くの人に見てもらえるかを調べ、近鉄奈良駅の改札口付近が格好の場所だと分かった。これらの結果から、外国人観光客にインパクトを与えやすい英文とどんな人でも分かりやすいイラストを組み合わせたポスターを改札口付近に啓発することが最も有効な啓発活動であると考察した。しかしこれらのことを行動に移せないまま、探求活動は終了した。今後探求活動を続ける予定は無いが、日々の生活でこの探求活動で学んできたことを意識し、持続可能な地球に少しでも近づけるようにしたい。

- 終わりに

私たちが考えた解決策はどれも実施できない理由や問題点があった。最初は普通に解決できる問題だと思った。しかし、この問題は私たちの想像を超える難しい問題であり解決までの道のりが長いものだった。奈良のシカと人との共存は一般的な野生動物との共存とは違う。奈良のシカは人々に敬意を持ち、ヒトとの共存をいち早く成し遂げた動物だ。我々人間こそ奈良のシカに敬意を表し意識を変えるべきだ。私たちは実際に行ったポスター掲示などの啓発活動が奈良公園のシカを守るための1番の方法だと考えた。しかし、この問題は人間が意識をもちゴミを持ち帰ることさえできれば簡単に解決できるはずだ。ゴミを持ち帰るという意識を持つことは簡単だが行動に起こそうとする人は少ない。私たちは常にこのことを意識し、行動したい。

今回の探求活動を通じて私たちができたことは少なく問題解決に向けての大きな一歩はなかったかもしれないが私たちの意識は確かに変わった。

- 出典

一般財団法人奈良の鹿愛護会ブログ イベント情報日々のこと

<https://naradeer.com/blog/2021/07/22/1歳齡の雌鹿の第一胃からプラスチックごみ>

日本獣医生命科学大学 宇佐美氏のブログ

<https://opendata-web.site/> オープンデータウェブサイト

著者名. “Webページのタイトル”. Webサイトの名称. URL, (アクセス日)